

2. 公務員試験を知ろう！

ぶっちゃけ、
勉強時間は？

いつから始めた？

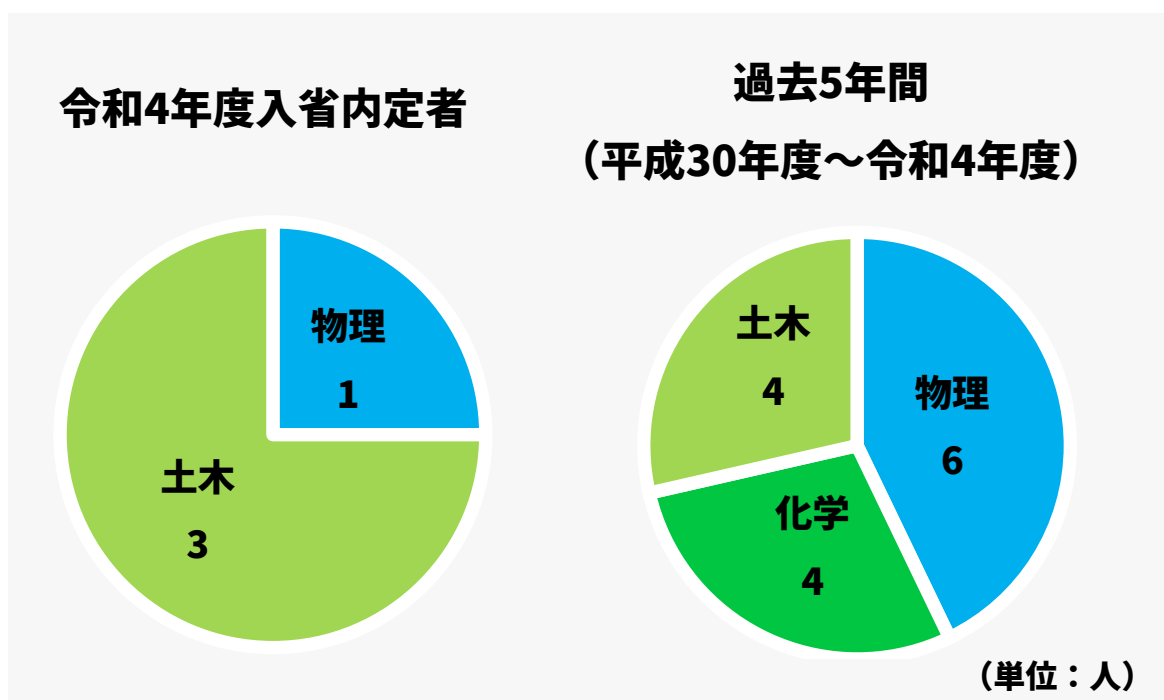


第2部．公務員試験を知ろう！

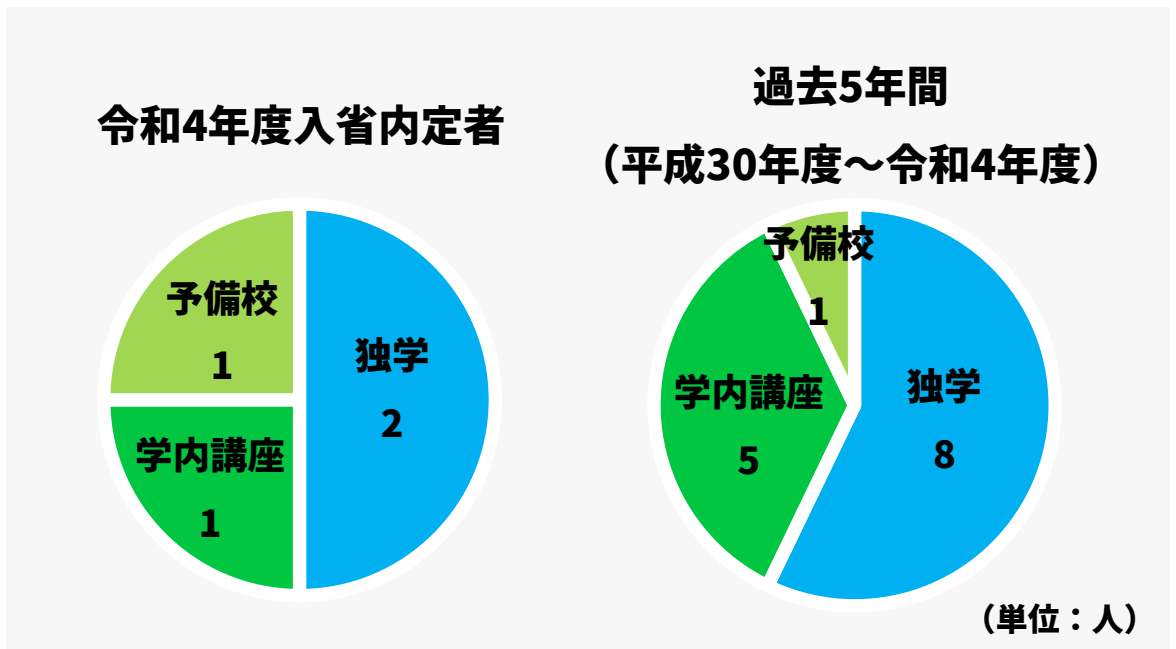
第2部では、内定者4名による国家公務員一般職試験の勉強・対策方法をお伝えします。なお、本冊子に記載している試験方法や内容は、令和4年度入省予定内定者が受けた試験について述べたものであり、次年度以降の試験とは異なる可能性があります。

また、第1部同様に内定者4人の体験談を紹介しています。勉強方法や勉強スケジュール等については、内定者個人の見解に過ぎない点をご了承下さい。あくまでも、本冊子は参考としてご覧いただければ幸いです！

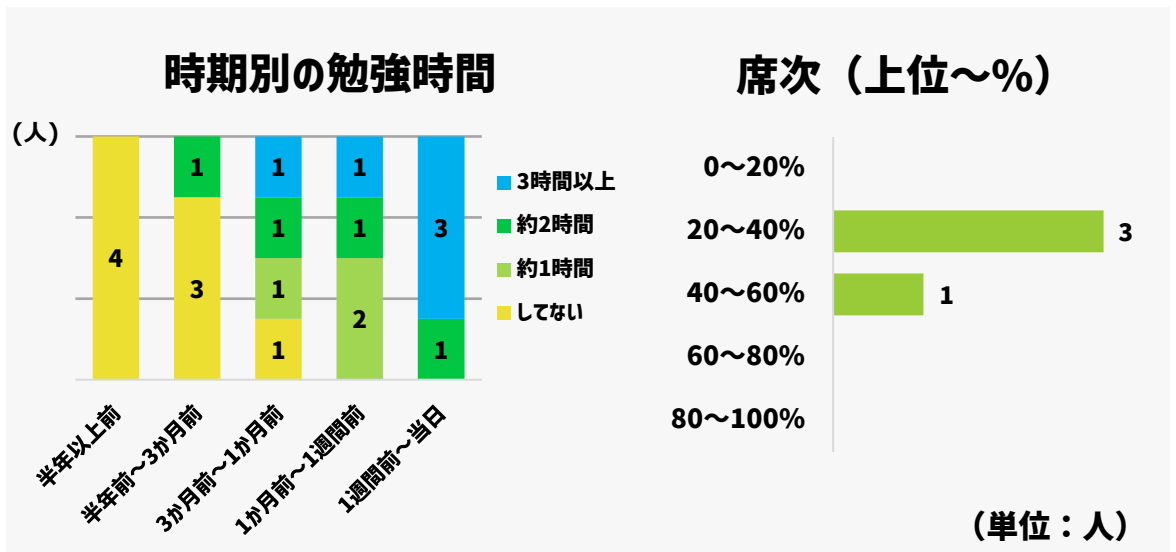
■ 試験区分



勉強方法



1次試験までの勉強時間と席次 (令和4年度)



■ 国家公務員一般職試験の概要

試験区分には、専門科目による区分が存在します。また、試験は大きく2つに分けられ、「1次試験（多肢選択式試験 + 記述式試験）」、「2次試験（人物試験）」があります。これらの筆記試験の過去問は人事院に請求することで入手できます。

1次試験

基礎能力試験（多肢選択式）

いわゆる教養試験で、40題出題されます。問題は多岐に渡っており、国語力や英語力、頭の柔らかさ、知識力などが試されます。マーク式です。

専門試験（多肢選択式）

40題出題で40題解答（建築区分は33題）となっている専門区分が多いですが、選択問題を含む区分も存在するので、区分ごとによく確認が必要です。マーク式です。大学、大学院の試験や入試が選択式になっているようなイメージです。この配点が高いので頑張りましょう。

専門試験（記述式）

選択した専門分野で出題されたテーマに対し、社会的な問題等を織り交ぜて自分の意見を論ずる小論文形式の論述問題（建築区分は製図問題）です。時間は1時間です。集中力の維持と短時間での記述能力が大事になると思います。

これら3つの試験はすべて同日に行うので、長丁場の体力勝負はここから始まっているように思います。

2次試験

上記の1次試験に合格後、2次試験へと進みます。

人事院面接

当日までに面接カードを記入して、基本的にその内容に沿って質問される個人面接です。面接時間はおよそ10~20分程度で、面接官は3人です。

官庁訪問

官庁訪問

見事2次試験を合格し、最終合格した人は採用候補者名簿に掲載され、官庁訪問を受けることが可能になります！

採用候補者名簿への掲載は3年間有効なため、少しでも興味があるのなら前年度から積極的に試験を受験することをおすすめします。

官庁訪問の詳細については第3部で説明します。

Go to the next page...

No.1 豚汁

区分：土木

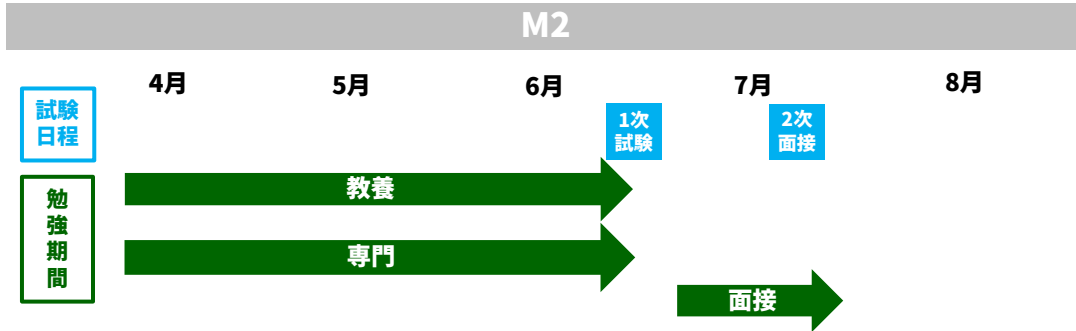
合格年度：2021年度

大学：埼玉県/

理工学研究科

環境システム工学系専攻

■ 勉強スケジュール



個人的事情として、学部4年次に公務員試験の勉強をした経験があり、M1では、研究と民間企業の就職活動で忙しかったため、M2の4月から学習を開始しました。一般職試験の1次試験に間に合うよう、2ヶ月間コツコツ学習しました。学習スケジュールは、皆様の事情に合わせ、個々で考えていただくことが適切かと思えます。

■ 各試験の勉強量バランス



最初に過去問を解き、教養も専門もなかなか解けなかったため、同じくらい勉強しました。まずは1次試験の突破を目標に勉強しました。一方で、面接の割合が少ないですが、民間企業の面接で最低限のマナーは身につけられたと判断し、あまり時間を割きませんでした。

■ 試験結果

- ・ 席次 総合職(院卒)下・一般職(大卒)上

■ 利用してよかったもの

過去問五年分(人事院から取り寄せ)

■ 各試験の具体的な対策

下記が主な対策方法です！

1次：教養

前頁と重なりますが、過去問題メインで取り組みました！『スーパー過去問ゼミ』などで演習をする時間もなかったのですが、人事院の発行している本問題を取り寄せて解きました。解いているうちに、得意分野と苦手分野がはっきりすると思います。私は、自信がある分野は80%は正答出来るように意識していました。

1次：専門（多肢選択式）

過去問演習です！マークシートであることを加味し、理解して正答するだけでなく、二択に絞る力も意識していました。当たり前のことかもしれませんが、答え合わせ後は解法の確認まで行いました。正直めんどくさい作業ですが、実力の養成にはもってこいの対策法であると思います。一般職試験は、1次試験の得点比重が大きいので、頑張りましょう！

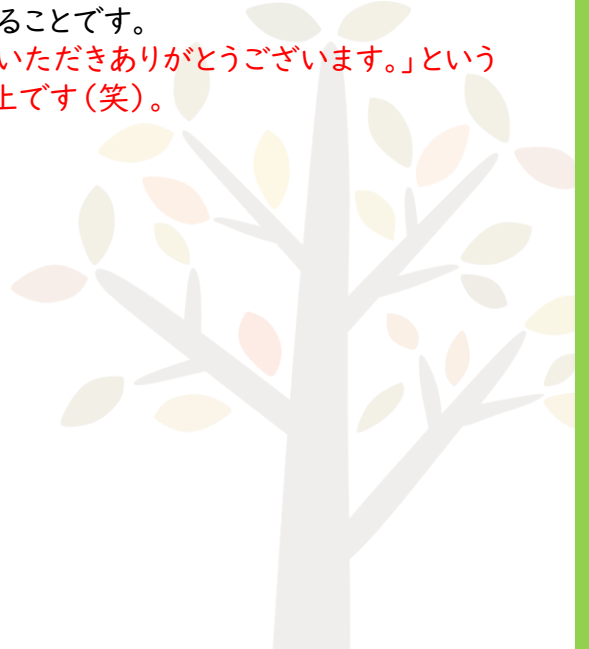
1次：専門（記述式）

正直な話、あまり対策をしていません（汗）。過去問1年分を解いて、傾向をつかみました。文章の記述式なので、話の大筋がズレないように気をつけました。

2次：人事院面接

こちらも政策討議と同じく民間企業の面接で場慣れしておきましょう。質問はベーシックなもの（志望理由、学生時代に力を入れていたこと、長所・短所等）でした。僕なりの面接のコツは、面接官の方への感謝の気持ちを表現することです。

面接開始時に、「本日は、貴重なお時間を割いていただきありがとうございます。」というくらいの気持ちで臨むと、良いと思います。乱用禁止です（笑）。



No.2 りんご

区分：土木

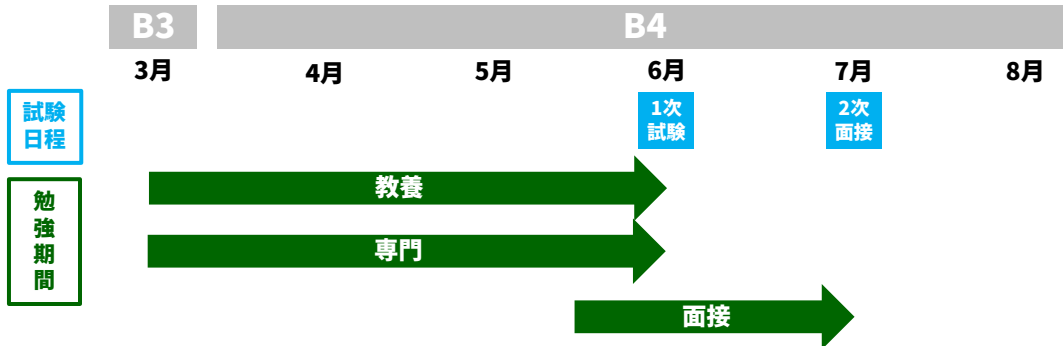
合格年度：2021年度

大学：滋賀県/

理工学部

環境都市工学科

■ 勉強スケジュール



私が受けた年度の試験日程は以下の通りです。

- ・総合職1次試験：4月下旬
- ・一般職1次試験：6月上旬 → 一般職2次試験：7月中旬～

3回生の5月に大学の公務員試験対策の講座に申し込んだものの、2月頃までは民間企業の就職活動を行っており、結局ぎりぎりまで本格的な勉強はしていませんでした。総合職試験合格も視野に入れて勉強をするのであれば、もっと余裕を持つ必要があると思います。

■ 各試験の勉強量バランス

教養	専門	論文	面接
40	20	10	30

勉強を始めるのが遅かったため、1次試験突破のためにかけた時間は少なかったです。私は面接になれていなかったため、面接対策（官庁訪問も含む）には時間をかけました。しっかり準備して不安を取り除くことができよかったと思います。

■ 試験結果

- ・席次 中

■ 利用してよかったもの

- ・『速攻の時事』（面接対策に使いました）

■ 各試験の具体的な対策

1次：教養

私は数的処理を重点的に勉強していました。いくつか問題の種類があるので、自分にとって解きやすい問題、解きにくい問題を事前に分析しておくことが必要です。どの種類の問題に時間を割くかの作戦を立てておくと、本番で問題の取捨選択を思い切ることができるのでいいと思います。文章理解は解き方のコツを掴んで、できるだけ時間をかけずに解くことを意識していました。

1次：専門（多肢選択式）

大学の公務員試験対策の講座で使っていた、過去問ベースの問題集を解いて、正誤と解き方を確認する勉強方法をしていました。構造力学、土質力学、水理学は大学で勉強していたので、得意分野として伸ばすためによく取り組んでいました。

1次：専門（記述式）

一般職試験は専門記述試験も教養試験や専門マーク試験と同日に行われるのですが、対策する時間がなく、長い文章を書くということに慣れないまま挑んでしまったため、試験結果が出るまでずっと不安でした（1次試験と同じ日に行われますが、点数は2次試験の合否に影響します）。私は時間内に解く練習ももっとしておけばよかったなと思ったので、問題が解けるだけではなく急いで解くことができるようになってから試験に臨むことをおすすめます。

2次：人事院面接

人事院面接に限らず、官庁訪問にも言えることですが、自分の考えを持っておくだけでなくそれをどれだけ噛み砕いてわかりやすく説明できるかが大切だと思います。

自己分析も面接対策も、ひとりでじっくり考えることも必要ですが、誰かとお話しながら自分の言葉を言い換えてもらったり、別の目線での考え方をもらったりすることも、必要なんじゃないかなと思います。私のときはコロナで人と話す機会が少なかったのですが、キャリアアセンターや自分のことをよく知ってくれている友人に助けられていました。

基本的には面接カードに書いてあることをベースに質問して下さるので、要約して書いた面接カードの内容を、より詳しく話せるように準備しておくことが必要です。

No.3 いえろ-

区分：物理

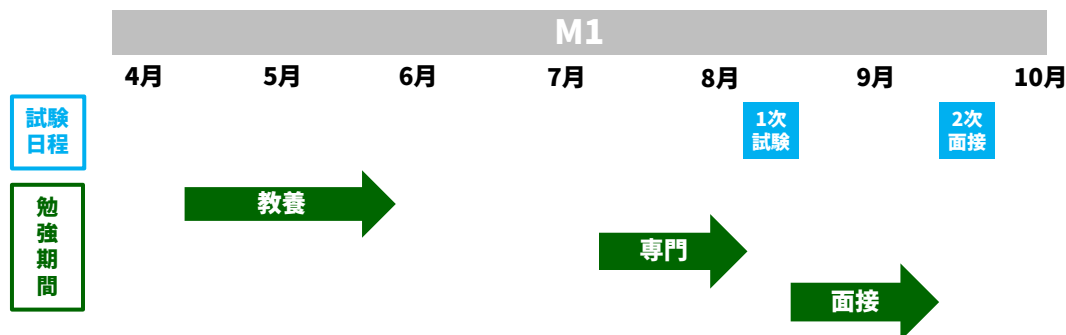
合格年度：2020年度

大学：福岡県/

理学府

地球惑星科学専攻

■ 勉強スケジュール



MIで受験し、合格しました。この年は緊急事態宣言の影響で日程が延期されました。4月のはじめに受験を申し込んだ後に緊急事態宣言が出たので、4月から5月の自粛期間中に1次の教養試験の勉強をしました。その後、学業との兼ね合いであまり勉強時間が取れない期間がありましたが、7月に1次の専門試験の勉強を開始し、8月上旬に1次試験を受けました。1次合格後は2次の面接試験の準備をし、9月中旬に2次試験を受験しました。

■ 各試験の勉強量バランス

教養	専門	面接
50	45	5

専門は物理を選択しました。教養と専門でバランスよく勉強しました。配点の比率は専門>教養なので専門の勉強に比重を置くのが一般的だと思いますが、塾講師のアルバイトで物理を教えていた経験があったので、専門の勉強は不足している知識を補うくらいで、教養（特に推論問題）の勉強時間を多めに確保しました。

■ 試験結果

- ・ 席次 上

■ 利用してよかったもの

- ・ 『スーパー過去問ゼミ 数的推理』
- ・ 『スーパー過去問ゼミ 判断推理』
- ・ 『技術系 スーパー過去問ゼミ 工学に関する基礎(数学・物理)』
- ・ 大学の講義資料、試験問題

■ 各試験の具体的な対策

1次：教養

推論問題を中心に対策しました。効率よく問題を解いていくために、『スーパー過去問ゼミ』を使って、図やグラフを活用して解く練習をしました。英語は、TOEICの勉強をしたり、研究で普段から英語論文に触れたりしていたのが、わずかながら対策になっていたと思います。文章読解、科学、社会の対策は特にしていません。時事問題の対策については、生活の空き時間に、『速攻の時事』の関心のある内容だけでも目を通していました。

本番当日は、解く順番と時間配分に気を付けました。試験開始直後に科学、社会、時事の問題を素早く解いて、文章読解、英文読解、推論問題、資料問題にじっくり時間をかけました。

1次：専門（多肢選択式）

『スーパー過去問ゼミ 工学に関する基礎』を使って勉強しました。基礎的な内容については塾講師のアルバイトで高校生に物理を教えていたこともあり、特に対策はしていません。地球物理の内容については、専攻が地球科学であるため、講義資料や試験問題を見直して、基本的な問題は解けるくらいまで準備をして臨みました。

1次：専門（記述式）

記述試験は小論文形式ですが、特に対策はしていません。当日は、主張をしっかりとまとめて書き始めることを意識しました。試験時間の前半を資料の読み込み、論点整理、文章構成に使い、後半で小論文を書き上げました。気が早いですが、国家公務員になったつもりで主張をまとめました(笑)。

2次：人事院面接

個人的には、一般職の面接カードの記述欄が狭く感じたので、要点を絞って書きました。「これを書いたらこういう質問が来るだろうな」と、面接時を想定していました。大学の進路支援室の職員さんにも添削してもらいました。

面接本番では、単に質問の受け答えをするのではなく対話を意識しました。面接カードの内容を確認し、ある程度質問を想定して臨みました。個人的には、人事院面接に厳格な雰囲気はなく、比較的和やかに終了した印象です。

No.4 おこめちゃん

区分：土木

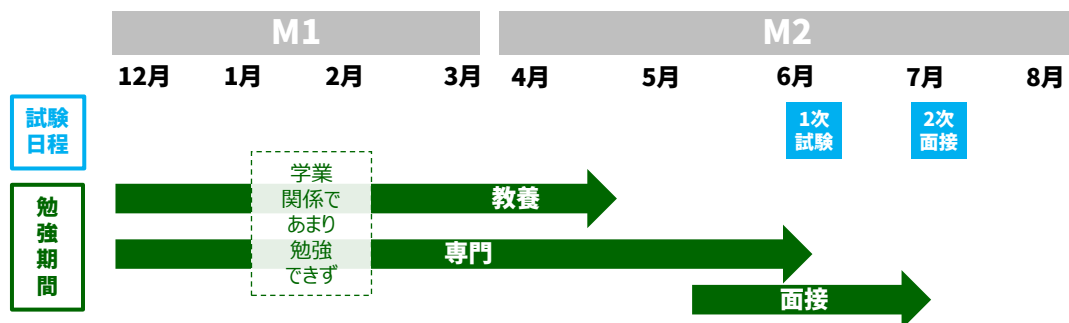
合格年度：2021年度

大学：東京都/

環境・社会理工学院研究科

融合理工学系専攻

■ 勉強スケジュール



前年度（M1時）の受験前に、ほんの少し勉強してた時期もありましたが、今回の試験に向けた勉強スケジュールとしては以上の通りです。総合職試験も受験したため、総合職試験に向けた勉強期間になっていることをご了承ください。

3月に入ると、併願していた民間企業のES作成に時間を割く必要があり、ESに追われつつ試験勉強を行うのが大変でした。なので、民間企業を併願する方は、試験勉強に手がつけられない時期を想定しながら、勉強スケジュールを組むことをおすすめします。

■ 各試験の勉強量バランス

教養 2.5	専門 90	論文 2.5	面接 5
-----------	----------	-----------	---------

!!「試験まで時間がない」「とにかく専門科目に重点を置きたい」方向けです!!

（※余裕をもった勉強プランの作成が最優先です）

私は、前年度、前々年度の受験を通じて、教養が得意、専門が苦手ということが分かっていました。専門の中でも特に、土木は大学で勉強しておらずゼロから勉強しなければならなかったため、工学の基礎よりも土木に多くの時間を割いていました。教養や論文より専門科目のほうが配点が高いこともあったので、結果的にこれが私にできた最善のバランスだったと思います。

■ 試験結果

- ・ 席次 上

■ 利用してよかったもの

- ・ 過去問（人事院からの取り寄せはお早めに）
- ・ ネットの土木解説ページ（調べるといろんなサイトが出てきます）
- ・ 指導教員による面接カード添削
- ・ 予備校の土木講座、面接カード添削、面接練習

（※予備校は、初めて手をつける科目がある方や、自分の進路や勉強法を個別にじっくり相談したい方におすすめです。大学などで一通り試験科目に触れたことがあれば、独学でも問題ないと個人的には思います。私はいろんな人にいろんな意見を聞きたい性格なので、予備校の個別面談があって精神的にも落ち着きました。）

■ 各試験の具体的な対策

1次：教養

専門科目に比べ得意なほうだったので、あまり時間を割いていません。文を読むのに慣れておこう、頭をほぐしておこう、という程度で、毎日（総合職1次試験日まで）英語、現代文、数的処理をそれぞれ数問ずつ、と決めていました。

当日の解く順番は「英語→現代文→知識分野→数的処理」と決めていました。得意な英語、慌てず読めば得点できる国語を最初に、解答時間最後の最後まで粘りたくなくて、あろう数的処理を最後に、という考えです。知識分野で、いかにサクサク進めて残り時間を確保できるかがポイントです。

1次：専門（多肢選択式）

総合職対策も含まれますがご了承ください。

土木はゼロから勉強、かつ試験までの時間もなかったため、構造力学（予備校のテキスト使用）と環境工学・衛生工学（「土木職公務員試験 専門問題と解答 選択科目編」使用）に絞り、総合職2次に向けて狭く深く勉強していました。一般職試験の少し前になって、総合職2次対策と並行して、一般職用に水理学、測量などもちょこちょこ勉強しました。工学の基礎は、自分の好きな分野をメインに問題集（予備校のテキスト、「技術系最新過去問 工学に関する基礎」使用）を解き進めました。

当日は、まず全体に目を通して解けそうな問題から解いていきました。解答時間が足りないのとにかくこれに尽きます。

1次：専門（記述式）

論文対策にそこまで時間は割きませんでした。過去問（orネットに転がっていた話題）を題材に、制限時間を設けて仕上げる練習を数回だけ行い、研究室の指導教員に添削を依頼しました。

上記のような作成練習ができなくても、大まかな論文の構成だけは自分なりに決めておくことをおすすめします。当日、「今の時間でここまでしか書けてないからもう少しペースをあげよう」などと、ペース配分を確認する軸にもなります。

当日は、事前に決めた論文構成をもとに、最後に言いたい結論からさかのぼりながら、自分の持つ知識、経験などを組み込みやすいような話の流れに持っていくのがポイントなような気がします。

2次：人事院面接

面接カードの作成には時間をかけました。予備校の担当者、所属研究室の指導教員、友人など、いろんな方々に添削を依頼しました。また添削と同時に、このカードで想定される質問はなにかも教えてもらうようにし、それに対する回答を準備していました。いろんな人に見てもらえたので、自信を持って本番に挑むことができました。また、面接カードは書く欄がとても狭いので、カードだけで100%を伝えようとせず、いかに自分がアピールしたいことの“キーワード”を散りばめられるかが重要です。

面接本番では、結論ファーストを常に意識していました。緊張はしたものの、面接は得意なほうではあったので、面接官の目を見ながら普段の会話だと思いながら挑みました。面接官の質問が分かりづらい時は、焦らず、素直にもう一度聞き直すのがおすすめです。